

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 5 月 12 日現在

機関番号：21402

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2021

課題番号：16K18768

研究課題名（和文）農村起業の連携にみる縮小社会の可能性

研究課題名（英文）Analyzing the possibility of shrinking society through the cooperation of rural entrepreneur

研究代表者

梶本 歩美（Sugimoto, Ayumi）

国際教養大学・国際教養学部・准教授

研究者番号：90648718

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、人口減少や過疎高齢化による地域社会の縮小化がみられる秋田県において、グリーン・ツーリズムという農村起業を通して、地域住民とくに女性たちがどのように新たな社会関係や価値を創出し、より質の高い暮らしを実現しようとしているのかをライフストーリー分析をもとに明らかにした。とくに農家民宿経営者の世代間継承に着目し、第一世代と第二世代のライフストーリーを比較することで、世代間で農家民宿そのものの意味や個人の生き方がどのように変容したり、また継続しているのかを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ライフスタイル起業家やヘテロトピアという概念を援用し、二世代のライフストーリーを比較することで、農村起業が生み出すものについて明らかにした。学術的意義は、これらの概念を用いたことで、本分野での分析視点をより拡張することができたこと、そして個人の実践から農村社会をより多面的に理解することができた。社会的意義は、農村起業を経済的な動機や効用だけに収斂させず、個人の自己実現や価値創出などの社会的側面から理解する重要性を示すことができた。農村社会や農村政策に関する議論において、より個人の実践に着目することや、世代間での継承と変容が混在するものとして農村を捉える大切さを示すことができた。

研究成果の概要（英文）：This research discussed how rural women had sought their own lives through rural business, especially green tourism such as running farm inns, in Akita, facing a shrinking society due to its high depopulation and aging rates. Through life story analysis, this research examined how they created new social relations and life values to realize a better quality of life through green tourism. The case study focused on the succession of the farm inn business. It clarified the changes and continuation of the meanings of farm inn and a way of self-realization between the two generations.

研究分野：地域研究

キーワード：グリーン・ツーリズム 農家民宿 ライフストーリー

1. 研究開始当初の背景

人口減少や過疎高齢化が進む日本の農山村では、加工販売、直売所、農家レストラン、農家民宿など、地域の農林産物を生かした起業による地域活性化の取り組みが広がっている。これらの農村起業を、農業の生産政策や経済・所得政策だけに位置づけてしまうと、人口変動、非農業的就業構造、生活様式や社会意識の変化など、明治以降の大きく変化する農山村の実情から乖離することになる。農村起業は、個人経営・グループ経営ともに地域資源を活用するうえで、家族、近隣住民、集落外の人びとの個人レベルでの協力や連携が必要である。個人間の関係が、地域社会にどのような影響を与えているのかについても、注目する必要がある。これまで農村起業における個人と地域社会の相互関係について論じた研究においては、社会関係・知識技術・価値・資本の創出による既存のイエ・ムラの制度変容の関係について、事例研究は十分ではなかった。

このような背景から本研究は、秋田県仙北市のグリーン・ツーリズムの担い手を事例として、日本の農村起業における住民の連携が、地域社会に新たな社会関係や価値を生み出し、住民の暮らしの質を高める可能性と限界について、より個人に焦点をあてて明らかにしようとするものである。農村起業のなかでグリーン・ツーリズムは、女性の自発的で個人的なネットワークに基づくものが多く、イエやムラの枠組みから一線を画していることが明らかになっている。そこでは、ムラの社会的基礎となるような共同の取り組みとしては扱えないような関係が生み出されているという(荒樋 2008)。農村での生活や経済活動の範囲が拡大するなかで、地域の自治組織とは一線を画す、個人を主体とした新たな連携による自治の可能性と限界を考えることは、縮小社会のあり方を議論するうえで鍵になる。

2. 研究の目的

本研究は、日本の農村起業における住民の連携が、地域社会に新たな社会関係や価値を生み出し、住民の暮らしの質を高める可能性と限界について明らかにすることを通して、縮小社会のあり方について議論を深めることを目的としている。

当初の計画では、秋田県仙北市西木町において農産物など地域資源を生かした経済活動を通して地域づくりに取り組む二つの事例、農村女性のグリーン・ツーリズムネットワークと、複数集落が集まった地域運営体という自治組織を調査対象としていた。それらを比較するなかで、各活動に参加するメンバー個人と家族・地域社会・外部との相互関係を明らかにし、そこからメンバーが新たに獲得した社会関係・知識技術・価値・資本を明らかにすることを通して、住民の連携が生み出す地域社会の変容とそのあり方について検討する計画であった。これは、起業主体が既存のイエ・ムラの枠組みに基づくのか、それと一線を画す自発的な個人やグループに基づくのかという違いによって、地域内外における連携の形も変化し、連携から生まれる資源や社会変容も異なると考えられるからであった。自治組織と農村女性個人のネットワークを比較することで、農村起業における住民の連携の有効性と限界を幅広く検討できると考えていた。

しかし、研究を進めるなかで、研究代表者の海外留学による現地調査の制約、新型コロナウイルス感染症による往来自粛という当初の想定と異なる変化があった。あまり広範囲に調査対象者を設定するのではなく、より対象を絞って質的調査を長期間行う方が現実的だと判断した。そこで、主な対象を仙北市の農家民宿経営者の女性たちに絞ることにした。さらに、ライフストーリーを採録するなかで、世代間で事業が継承されていることに着目し、世代間での比較を取り入れることで、より長期的な視野で分析することにより、研究を深めることにした。

3. 研究の方法

本研究の方法として、まず、文献調査としては、農山村振興策における交流・連携に関するこれまでの施策を整理し、国や地方自治体がグリーン・ツーリズムをどのように位置づけてきたのかという政策の変遷を明らかにした。また、農村社会学や観光学を中心に、グリーン・ツーリズムがどのような視点や枠組みで議論されてきたのかという既存の理論を整理した。

そして事例研究を行うための現地調査では、秋田県庁や仙北市役所の担当部署への聞き取り調査により、秋田県や仙北市におけるグリーン・ツーリズム施策を理解したうえで、秋田県仙北市西木町のグリーン・ツーリズムのネットワークに参加する住民メンバーのライフストーリーの採録と分析を行った。この住民への聞き取り調査では、とくに二世世代間で農家民宿事業が継承されているケースに注目し、農家民宿を始めた第一世代とそれを引き継いだ第二世代の間で、どのように農家民宿やグリーン・ツーリズムのあり方や位置づけが、継承または変容しているのかを比較分析した。そして、個人と家族との関係や、個人と地域住民との関係、訪問客との交流などの語りを通して、個人と地域社会の相互関係を分析することに努めた。また、これらの相互関係のなかで生み出される、社会関係・知識技術・価値・資本についても考察した。

国内外の学会発表で研究成果を報告して議論を深め、英語論文で成果を発表した。

4. 研究成果

本研究では、人口減少や過疎高齢化による地域社会の縮小化がみられる秋田県において、グリーン・ツーリズムという農村起業を通して、地域住民とくに女性たちがどのように新たな社会関係や価値を創出し、より質の高い暮らしを実現しようとしているのかをライフストーリー分析をもとに明らかにした。とくに農家民宿経営者の世代間継承に着目し、第一世代と第二世代のライフストーリーを比較することで、世代間で農家民宿そのもののあり方や個人の生き方、家族や地域社会との関係がどのように変容し、また継続しているのかを明らかにした。具体的には、以下の点を主な成果として報告する。

(1) 2つの概念を援用することによる分析視点の拡張

本研究は、「ライフスタイル起業家」と「ヘテロトピア」という概念を援用して、二世代のライフストーリーを比較することで、農村起業が生み出すものについて明らかにした。

ライフスタイル起業家とは、農村ツーリズムに取り組む農村住民が、必ずしも利益の拡大だけを目的とせず、自分が望む暮らし方や自分らしさの実現を求めているという特徴があることを概念化したものである(例えば Morrison, 2006)。この概念を援用することで、グリーン・ツーリズムの実践を通して、住民が経済的利益だけでなく、自己実現やアイデンティティの構築を行いながら、既存のイエヤマの枠組みとそれぞれの距離をとって、より自分が理想とする質の高い暮らしを模索しようとしていることが明らかになった。

また、ヘテロトピアは、それぞれが一つの場に、異なる理想的なイメージや位置づけを行って集まっている状況を意味する(Foucault, 1986)。農家民宿やグリーン・ツーリズムは、経営者、地域住民、行政、客、マスコミなどが、それぞれに想像する理想の意味づけをして関わりあっている場といえる。この視点をういて農家民宿経営者のライフストーリーを分析することで、グリーン・ツーリズムの意味の混在性や複雑性を理解することができ、農村起業や農村社会を一つの意味づけや関係性に収斂させない議論につなげることができた。これらの概念を用いたことで、本分野での議論や分析視点をより拡張できたことは、本研究の学術的意義といえる。

(2) 世代間の比較による農村社会の可変性と混在性の理解

上記2つの概念を援用して、農家民宿経営者二世代のライフストーリーの比較分析を行った。同じ家族であっても、世代間でグリーン・ツーリズムのあり方や意味づけ、地域住民、行政、客などの他者との関係づくり、そこから生み出される価値や意味も異なる部分があることが明らかになった。その背景として世代間では、アイデンティティの基盤となる家族内役割や農家・農村住民としての自己認識が異なっていた。また、経済的動機の強弱の違いなどのように、農村で暮らしを立てるための戦略も異なっていた。グリーン・ツーリズムは、農村社会の活性化に資するものとして議論されることがある。しかし本研究で担い手である住民は、たとえ同じ地域に暮らす家族内であっても、グリーン・ツーリズムの意味や位置づけ、それを通じたアイデンティティの構築の仕方、他者との関係のあり方が異なっていた。非常に多様な個人が集うなかで、総体として農村社会が作られていることを本研究は示すことができた。日本の農村社会の可変性と混在性を明らかにすることで、本分野の議論にあらたな事例や知見を提示することができたことも、本研究の学術的意義といえる。

(3) 個人の实践から農村政策を論じる視点

このように、個人の实践から農村社会をより多面的に理解することで、農村起業を経済的な動機や効用だけに収斂させず、個人の自己実現や新たな農村の価値創出などの社会的側面からも理解する重要性を示すことができた。これは、学術研究にとどまらず、農村社会政策の議論において、より個人の实践に着目して、政策立案をしたり支援を行う重要性を示した。これは、同じ家族であっても世代間で理想とする農村や自己のあり方が、ときに共有されたり異なることや、それぞれがつながる他者やそこから生まれる社会関係のあり方が異なることがあるためである。このような個人の日々の实践が、新たな社会関係を生み出し、農村社会や家族のあり方にも影響を及ぼしている。農村に暮らす個人の間で何が継承され、また変容しているのか、という視点から農村政策を議論する重要性を示していることは、本研究の社会的意義といえる。この点については、2022年に発行される予定の分担執筆した和書でも強調している。

<引用文献>

荒樋豊, 2008, 「日本農村におけるグリーン・ツーリズムの展開」日本村落研究学会編『年報村落社会研究 43 グリーン・ツーリズムの新展開』農山漁村文化協会, 7-42.

Foucault, Michel. 1986. "Of Other Spaces." trans. Jay Miskowiec in *Diacritics* 16(1) 22-27.

Morrison, Alison, 2006, "A Contextualisation of Entrepreneurship," *International Journal of Entrepreneurial Behaviour and Research* 12 (4): 192-209.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Ayumi Sugimoto	4. 巻 non
2. 論文標題 Rural Women Food Entrepreneurs: Traditional Skills, New Fulfillment	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceeding of the 15th Congress of the International Society of Ethnobiology	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ayumi Sugimoto	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 Success and succession: agritourism, heterotopia and two generations of rural Japanese female entrepreneurs	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Anthropology	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/1683478X.2021.2013957	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 梶本歩美
2. 発表標題 農家民宿の継承と変容 秋田県仙北市西木町の事例
3. 学会等名 第67回日本村落研究学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ayumi Sugimoto
2. 発表標題 Succeeding the Farm Family by Creating New Life: Two generations of farm inn owners in Akita
3. 学会等名 117th Annual Meeting for American Anthropological Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ayumi Sugimoto
2. 発表標題 Rural Tourism as a Sustainable Alternative?
3. 学会等名 Economics and International Studies Autumn Seminar Series at The University of Buckingham
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 梶本歩美
2. 発表標題 農家を継ぐ女性たち 農家民宿経営をめぐる多世代ライフストーリー
3. 学会等名 日本オーラル・ヒストリー学会第15回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ayumi Sugimoto
2. 発表標題 Rural Women Food Entrepreneurs: Traditional Skills, New Fulfillment
3. 学会等名 The 15th Congress of the International Society of Ethnobiology (ISE) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 梶本歩美
2. 発表標題 米、作らなくていい日本になるなんて、思わなかった - 農家民宿経営者の個人史
3. 学会等名 第4回持続可能な農業・農村を考えるセミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ayumi Sugimoto
2. 発表標題 Transforming Rurality and Rural Self: Different strategies between two generations of rural female entrepreneurs in Japan
3. 学会等名 The 2nd Congress of East Asian Sociological Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------